



二月(平) 如月 角宿

二月四日立春の節より
月命庚寅八白土星の月
暗剣殺東北方

(東京) 日出 日入
六、四一 一七、〇八
六、三二 一七、一八 旧十二月小
六、二一 一七、二八 正月大

| 日 | 曜日 | 干支 | 九星 | 行 | 事 | 旧暦 | 六耀 | 中段 | 其宿 | 満潮 | 干潮 |
|-----|----|------------|----|---------------------------------|-------|----|----|-----|----|------|-------|
| 1日 | 日 | ひのえ うま 丙午 | 七赤 | 初午、笠間稲荷初午祭、京都伏見稲荷初午祭、三隣亡、不成就日 | 旧十二月小 | 十四 | 先勝 | とる | 星 | 5.29 | 16.13 |
| 2日 | 月 | ひのと ひつじ 丁未 | 八白 | ○望七時〇九分、尾鷲まつり(1日〜5日) | | 十五 | 友引 | やぶる | 張 | 5.56 | 16.55 |
| 3日 | 火 | つちのえ 庚戌 | 九紫 | 節分、豆まき、奈良春日大社万灯籠 | | 十六 | 先負 | あやぶ | 翼 | 6.20 | 17.34 |
| 4日 | 水 | つちのとり 己酉 | 一白 | 立春五時〇二分 | | 十七 | 佛滅 | あやぶ | 軫 | 6.43 | 18.11 |
| 5日 | 木 | かのえ いぬ 庚戌 | 二黒 | 福井永平寺涅槃會撰心(1日〜7日) | | 十八 | 大安 | なる | 角 | 7.05 | 18.48 |
| 6日 | 金 | かのえ め 辛亥 | 三碧 | 新宮神倉神社火祭、三隣亡 | | 十九 | 赤口 | おさん | 亢 | 7.25 | 19.27 |
| 7日 | 土 | つちのえ 壬子 | 四緑 | 北方領土の日、八せん始め | | 廿 | 先勝 | ひらく | 辰 | 7.46 | 20.09 |
| 8日 | 日 | つちのとり 癸丑 | 五黄 | こと始め、針供養、一粒万倍日 | | 廿一 | 友引 | とづ | 房 | 8.08 | 20.58 |
| 9日 | 月 | きのえ 甲寅 | 六白 | ●下弦二時四三分、不成就日 | | 廿二 | 先負 | たつ | 心 | 8.32 | 22.09 |
| 10日 | 火 | きのと う 乙卯 | 七赤 | 加賀普生石部祭、福島信夫三山眺参り | | 廿三 | 佛滅 | のぞく | 尾 | 9.01 | — |
| 11日 | 水 | ひのえ たつ 丙辰 | 八白 | ■建国記念の日、奈良権原神宮例祭、水戸梅まつり(3月20日迄) | | 廿四 | 大安 | みつ | 箕 | 9.39 | — |
| 12日 | 木 | ひのと む 丁巳 | 九紫 | | | 廿五 | 赤口 | たいら | 斗 | 4.06 | 10.49 |
| 13日 | 金 | つちのえ 戊午 | 一白 | 二の午、一粒万倍日 | | 廿六 | 先勝 | さだん | 牛 | 4.17 | 11.26 |
| 14日 | 土 | つちのとり 己未 | 二黒 | 聖バレンタインデー、奈良長谷寺だだ押し | | 廿七 | 友引 | とる | 女 | 4.36 | 12.14 |

暦日上、二月初頭には立春という春めいた節日が設けられていたが、気候的、気温的には、雪まは冷雨の日が多く、まだまだ寒波寒風の荒れ狂うときである。

(冠)とくにこの項に入れることでもないが、誕生年に關することなので、ここで説明する。

「立春」は陰暦の正月節で、太陰太陽暦を使用する東洋の古い上の新年の起点とされている。従って表紙裏の年齢早見表にも説明があるように、立春前日の節分までは、前年の生まれ年になるのである。

この月は一ヶ月最少日の特異月で、しかもほぼ四年に一回閏日がある。誕生日が四年に一回しかこない人も生じることになる。

(婚) 婚に直接関係はないが、十四日は「聖バレンタインデー」とい、欧米ではこの日、女性から男性にプロポーズをしてもいいという風習がある。バレンタインデーは、もともとバレンタイン司教の殉教の日であるが、これにギリシャ神話の女神のロマンスが重なったものらしい。

最近では、わが国でもブレゼン

| 日 | 曜日 | 干支 | 九星 | 行 | 事 | 旧暦 | 六耀 | 中段 | 其宿 | 満潮 | 干潮 |
|-----|----|------------|----|---------------------------------------------|---|----|----|-----|----|------|-------|
| 15日 | 日 | かのえ 庚申 | 三碧 | ねはん会、横手かまくら、庚申 | | 廿八 | 先負 | やぶる | 虚 | 4.56 | 15.29 |
| 16日 | 月 | かのえ 辛酉 | 四緑 | 全国狩猟禁止、日蓮聖人誕生会 | | 廿九 | 佛滅 | あやぶ | 危 | 5.17 | 16.07 |
| 17日 | 火 | みのえ いぬ 壬戌 | 五黄 | ●朔二時〇一分、旧元日、島根出雲大社福神祭、伊勢神宮祈年祭(23日迄)、旧暦年忌(大) | | 朔 | 先勝 | なる | 室 | 5.38 | 16.43 |
| 18日 | 水 | みのと め 癸亥 | 六白 | アレルギー週間(17日〜23日)、八せん終り、三隣亡 | | 二 | 友引 | おさん | 壁 | 6.00 | 17.20 |
| 19日 | 木 | きのえ ね 甲子 | 七赤 | 雨水〇時五二分、甲子、不成就日 | | 三 | 先負 | ひらく | 奎 | 6.22 | 17.58 |
| 20日 | 金 | きのと う 乙丑 | 八白 | 八戸えんぶり(17日〜20日)、一粒万倍日 | | 四 | 佛滅 | とづ | 婁 | 6.44 | 18.39 |
| 21日 | 土 | きのえ 丙寅 | 九紫 | 福井勝山左義長祭、岡山西大寺会陽裸祭 | | 五 | 大安 | たつ | 胃 | 6.22 | 19.23 |
| 22日 | 日 | ひのと う 丁卯 | 一白 | | | 六 | 赤口 | のぞく | 昂 | 7.06 | 19.23 |
| 23日 | 月 | つちのえ 戊辰 | 二黒 | ●天皇誕生日、旧七草、松山椿祭(25日迄)、京都醍醐寺五大力尊仁王会 | | 七 | 先勝 | みつ | 畢 | 7.27 | 20.12 |
| 24日 | 火 | つちのとり 己巳 | 三碧 | ●上弦二時二八分、己巳、大田原大田山地藏尊春大祭 | | 八 | 友引 | たいら | 觜 | 7.50 | 21.12 |
| 25日 | 水 | かのえ う 庚午 | 四緑 | 三の午、京都北野天満宮梅花祭、大つち、一粒万倍日 | | 九 | 先負 | さだん | 參 | 8.13 | 22.43 |
| 26日 | 木 | かのえ ひつじ 辛未 | 五黄 | 良忍上人忌 | | 十 | 佛滅 | とる | 井 | 8.39 | — |
| 27日 | 金 | みのえ 壬申 | 六白 | 不成就日 | | 十一 | 大安 | やぶる | 鬼 | 9.17 | — |
| 28日 | 土 | つちのとり 癸酉 | 七赤 | | | 十二 | 赤口 | あやぶ | 柳 | 9.40 | 21.30 |

トするならわしをまねて、女性から男性にわたすハート型のチョコレットなどが盛んに売られるようになった。

(祭) 節分には、本来四季の移り変わるをこの日を以てするのであるが、とくに二十四節氣が一巡した大寒の未日、暦上の一年の最初の日の立春の前日をさし、地方によっては旧暦の大晦日(おおみそか)として、それぞれ、伝統ある行事が行われている。

一般には「福は内、鬼は外」。福豆(大豆の炒ったもの)をまき、この豆を年齢の数(地方によっては一粒多く)だけ食べる厄除けがある。痔(ひだけ)の枝にイワシの頭をさしたり、にんにくなど強い臭気のあるものを添えて、邪氣除けなどを行う風習もある。福豆をまき悪鬼を払うので追儺(おにやらい)といひ、古くから神社仏閣で年男により行われていた。十一日は「建国記念の日」として、国民の祝日になっている。終戦前(太平洋戦争)は「紀元節」といって、四大節のひとつであったが、日本国建国の記念日というのである。

二十三日は「天皇誕生日」である。令和の年号にふさわしい天皇家のご繁栄をお祈り申し上げます。

※「海上保安庁図誌利用第一〇二五〇三〇一頁」
 ※東京の満潮・干潮の時刻は海上保安庁刊行の「令和八年潮汐表」から採用したもので、異常な気象の影響は考慮していません。
 ※行事・休日・祭りは変更になる場合があります。事前に関係諸団体に確認してください。